



CLASSIFIED DOCUMENT

CASE NO. 7749-B

INTERROGATION REPORT

AGES

EXTRACTED FROM

SUBJECT: UNKNOWN / MALE / AGE 52

DATE: 12 NOV 1966 | TIME: 02:18 AM

LOCATION: SITE B - HOLDING ROOM 3

OFFICER: DET. K. MARLOW

PHOTOGRAPHED BY: CONRAD E. HARRISON

SUBJECT WAS DETAINED AFTER INCIDENT AT DOCK YARD. REFUSED TO PROVIDE NAME. POSSESSES NO IDENTIFICATION. CLAIMS NOTES: COOPERATIVE BUT EVASIVE. PENDING FURTHER INTERROGATION.

John H. Harrison

APPROVED - CASE OPEN
12/NOV/66



Handwritten notes on a piece of paper:
12/NOV/66

Schick、Wilkinsonと三重の不運

時代の先駆者だったこの人物には、わずかな紙幅しか割かない。理由は単純で、3つある。

- 1) 彼の物語は、製図台の上で描かれた発明から始まったのではない。人里離れた鉱山と辺境の地での、事故と苦難から始まった。
- 2) 最初の商業的成功の着想は、カミソリではなくライフルから得たものだった。マガジン・リピーティング・レイザーは、その装填の発想を連発銃と軍隊での経験から借りている。
- 3) 何より奇妙な点。財産の大半をバハマの持株会社に移したのち、アメリカ議会の税務調査を逃れるために、ついにはカナダ国民になった。

シック氏はアメリカ国籍を放棄してカナダ人になる道を選び、そうすることで、脱税と租税回避をめぐる議会の調査の手が届かないところへ身を置いた。

ここには、称えるべき高貴な出自もなければ、壮大な創業伝説もない。あるのは、歴史が一般に伝え、文脈のなかに位置づけてきた事実だけだ。

それでも、ある一点が説明の助けになる。なぜジェイコブ・シックは、ブランドそのもののなかでも、ひげ剃り業界を取り巻くより大きなナラティブのなかでも、伝説的な人物にならなかったのか。

財産の大半をバハマの持株会社の網へ移し、最後には帰化してカナダ国民になったのだ。

発明家を裁くつもりはない。

ただ事実を書き留めるだけだ。

Gillette、Wilkinson、そのほかのブランドは、製品と、儀式と、組織の記憶を軸に伝説を築いた。

これに対してSchickが後世に残したのは、もっぱらその男自身を中心とした物語だった。

私たちが発明者よりもカミソリのほうを覚えているのは、たぶんそのせいだ。

フェルディナンド